

## 留学生活7年を迎えて

阿部 耕大

読者の皆様初めまして。私は現在、ロシア・イルクーツクにありすイルクーツク国立大学の大学院修士課程1年に在学中の阿部耕大と申します。昨年7月に同大学を卒業し、9月から今度は大学院生としてイルクーツクへ滞在しています。今年でイルクーツク生活は7年目に入りました。どのような経緯で大学院に入学したか、勉強の様子、シベリアでの何気ない日常風景などを書いていきたいと思っておりますので、興味を持っていただければ幸いです。

2019年7月、準備学部2年と学部課程4年の計6年に渡るイルクーツクでの留学生生活を終え、日本でロシア語を使って働くんだなあと思っていました。成績優秀者に送られる赤色の卒業証書を引っ提げて、現地のお友達とお別れし、帰国便の中では6年間のロシア生活の悲喜こもごもを思い出し、少し感傷的になって涙まで流して日本へ戻ってきたものの、実際には就活はおろかアルバイトすら採用されず(2週間で面接3連敗)早速日本での社会不適合者ぶりが露呈して途方に暮れていました。以前イルクーツクにいらした某商社の方に言われた“最初からロシア語ができる人材は別に要らなくて、必要に応じて会社が社員送って習得させるんだよねー”っていう助言(又は嫌味)を思い出し、少し絶望して

た矢先ロシア国費留学の試験に合格したとのメールが送られてきました。授業料は無料、毎月奨学金支給(3000ルーブル)という条件が良いのか悪いのか分かりませんでしたが、日本でアラサー無職として白い目で見られるよりか、またイルクーツクで学生生活続ける方がマシだと思い再び渡航することに決めました。ちなみにサンクトペテルブルグ国立大学の無料留学試験は書類審査の段階で落選。同校主催国際ロシア語オリンピックで優勝した際には入学試験で加点されるからぜひ我が校の大学院に来てねと言われてたんですが…。

そして8月が過ぎ、9月15日に少し遅れてイルクーツク国立大学の大学院に入学しました。行きの飛行機の中ではまるで実家に出戻りするようで留学する前の高揚感は皆無。しかし別の不安がありました。なぜなら大学院でのクラスメイトは全員ロシア人、そして専門は“外国人の為のロシア語教授法”なるもの。(無料の枠はその専攻しかなかったのです)授業についていけるかな…と正直不安でした。まあそれはほぼ杞憂に終わるのですが、その話はまた次回。

大学の4年間共に勉強していたのは韓国人1名とモンゴル人1名(それぞれ途中で休学&退学)あとは全員中国人でした。もちろん授業は全部ロシア語でしたが、私も彼らも母語ではないのでとりあえずお互い通じればいいみたいな部分がありました。先生達も外国人にロシア語を教えることに特化した人達ばかりなので、発音や文法の間違いがあっても通じてしまう側面があったのは否定できません。そんな環境にいたからこそ全ての授業がロシア人と一緒ということにビビっていたのです。